

平成 17 年 5 月 31 日	病害虫発生予報 6 月号	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

安心・安全な農作物は，農薬使用の記録と農薬使用基準の遵守から！
農薬の総使用回数は「有効成分」で規制されます
< 目 次 >

． 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
水稲：いもち病(葉いもち)，イネミズゾウムシ	1
水稲：イネドロオイムシ	2
ナシ：黒星病，カメムシ類，ナシヒメシンクイ	3
夏ネギ：べと病，ネギアザミウマ	4
【その他の病害虫】	5
水稲，小麦，ナシ，ブドウ，カキ，夏ネギ，スイカ，促成ピーマン，作成キュウリ，抑制トマト	
． 病害虫ミニ情報	
農薬使用基準の一部改正省令の施行について ～ 農薬の総使用回数は「有効成分」で規制されます～	6
ナシを加害するハダニ類卵の薬剤感受性と防除について	7
農薬登録速報(4月)の概要	8
． 病害虫資料室	
今月号の病害虫から	9
． 今月の気象予報	
	10
． テレホンサービス	
普通作物	0 2 9 (2 2 6) 5 3 2 1
園芸作物	0 2 9 (2 2 6) 6 1 3 1

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 17 年 5 月 31 日現在のものです。
農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用基準，注意事項等を確認してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445
予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/ibaraki/>

・今月の予報
【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

5月下旬現在，例年通り置苗にいもち病の発生は認められなかった。
気象予報によると，6月の気温，降水量，日照時間は平年並で，初発も平年並と考えられる。

[防除上注意すべき事項]

常発地で育苗箱施用剤を使用していない水田では発生に注意する。
例年6月下旬から発生するので，葉いもちを粒剤で防除する場合は発生前に施用する。
粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合は，中干し後に必ず湛水状態で粒剤を散布する。かけ流しはしないで4日間は湛水状態にする。
防除所の調査地点では70%のほ場で置苗が認められる。置苗はいもち病の発生源となるため，速やかに本田から持ち出して埋めるなど，処分する。
中干し等の栽培管理を徹底し，イネの健全育成に努める。

2. イネミズゾウムシ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
やや遅い	やや多い	県北，鹿行地域
	平年並	県南地域
	やや少ない	県西地域

[予報の根拠]

5月下旬現在，本田における成虫の発生量は県北，鹿行で平年並，県南でやや少なく，県西で少なかった(表1)。
本年の成虫の発生ピークは平年よりやや遅く，6月上旬まで発生量は増加すると考えられる。

[防除上注意すべき事項]

全般的な発生量は平年並～やや少ないと予想されるが，育苗箱施用剤を使用していない水田では発生に注意する。
特に初期生育が遅い水田，山林，休耕田等の越冬場所付近では加害が多くなるので，水田全体をよく観察して発生量を把握する。
10株あたり8頭以上の成虫が認められる場合は6月中旬までにMR・ジョーカー粒剤等を散布する。粒剤の使用にあたっては，かけ流しはしないで4日間は湛水状態にする。
湛水状態は成・幼虫の活動に好適なため，防除終了後は適切な水管理をしてイネの健全育成に努める。

(水稲 イネミズゾウムシ続き)

表1 イネミズゾウムシ成虫の発生状況(5月下旬調査)

	虫数(頭)/25株			発生地点率(%)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年
県北	3.0	2.4	2.8	41	52	52
鹿行	2.3	2.0	2.2	33	50	50
県南	1.6	2.9	3.9	30	70	63
県西	0.7	5.8	3.6	18	64	68
全県	2.1	3.1	3.5	33	59	59

3. イネドロオイムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや遅い	やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

5月下旬現在,本田における越冬成虫の発生時期は平年よりやや遅く,発生量は少ない。

気象予報によると,6月は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され,発生しやすい条件である。

[防除上注意すべき事項]

比較的低温で湿潤な気候を好むので,曇雨天が続く場合は発生に注意する。育苗箱施用剤を使用していない水田では発生に注意する。育苗箱施用剤を使用しているも曇雨天が続いた場合は,6月中旬以降に発生が多くなる可能性がある。

例年,幼虫は6月上旬頃から発生し,被害は6月下旬に最も多くなる。

幼虫の発生が多く,食害が目立つ場合は,トレボン乳剤,アドマイヤー粉剤DL等を散布する。

表2 イネドロオイムシ成虫の発生状況(5月下旬調査)

	虫数(頭)/25株			発生地点率(%)		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年
県北	0.0	0.1	0.1	0	14	5
鹿行	0.0	0.3	0.2	0	17	11
県南	0.1	0.5	0.2	5	15	12
県西	0.0	0.0	0.0	0	0	2
全県	0.0	0.2	0.1	2	12	5

ナ シ

1 . 黒星病
[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

5 月下旬現在，発病果そう率と果そう基部での発生地点率は，県下全域において4月下旬調査時よりも増加している。果そう基部病斑は，葉や果実への伝染源となるため，今後感染が拡大する恐れがある。

5 月下旬現在，県南地域における発病果率は平年よりやや高く，果実での発生地点率は，平年より高い。

気象予報によると，6 月は平年並の降水量があると予想されており，今後入梅から梅雨明けまでは黒星病の発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発病した果そう基部，葉及び果実は二次伝染源となるため，見つけ次第除去し，土中深く埋める。

発病の多い圃場では，発病した果そう基部，葉及び果実を除去し，治療効果を期待できるスコア水和剤 10 等を散布する。

薬剤散布量は，10a 当たり 300 リットルを目安にし，丁寧に散布する。

薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

薬剤耐性菌の出現を回避するため，DMI（EBI）剤の年間使用回数は原則 3 回以内に抑えることが望ましいが，現在発病の多い圃場では追加散布を実施する。その際，使用回数には特に注意する。

（5 月 26 日発表の病害虫発生予察注意報第 1 号を参照）

2 . カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
やや遅い	少ない (越冬世代)	県下全域

[予報の根拠]

5 月下旬現在，チャバネアオカメムシの予察灯（かすみがうら市）への飛来は認められない。

本年 1 月の山林での越冬量調査の結果，越冬虫は過去 9 年中最も少なかった。

[防除上注意すべき事項]

ナシ園に多数のカメムシ類が飛来した場合，エルサン水和剤 40 等の薬剤による防除を行う。

カメムシ類は飛翔力が高いため，防除は活動が鈍い早朝に行う。

3. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

5月下旬現在，被害果は認めず平年並である。

5月下旬現在，フェロモントラップ（岩間町）への誘殺数は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

今後，次世代成虫が発生するため，テレホンサービス等を参考に適期防除に努める。

薬剤散布量は，10a当たり300リットルを目安にし，丁寧に散布する。

被害果を認めた場合は，土中深く埋めるなど速やかに処分する。

夏ネギ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

5月下旬現在，発病度，発生地点率とも平年並である。

気象予報によると，6月は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

葉に灰白色のかびの生えた病斑が見られる場合には，早期に防除を実施する。その後も曇雨天が続くと発生は助長されるため，発病状況に応じて薬剤散布を行う。

薬剤散布量は，10a当たり250リットルを目安にし，丁寧に散布する。

肥料切れは発生を助長するため，生育状況に合わせ適切な肥培管理を行う。

2. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

5月下旬現在，被害度，発生地点率とも平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

今後は気温の上昇に伴い増殖が速くなるので，発生初期からの防除を徹底する。

薬剤散布量は，10a当たり250リットルを目安にし，丁寧に散布する。

雑草は，ネギアザミウマの発生源となるため，圃場周辺の除草を徹底する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	黄化萎縮病	-	移植後 10～50 日の間に浸冠水があると発生の恐れがある。発生を認めた場合、直ちにリドミル粒剤 2 を散布する。
	イネクロカメムシ	発生時期：遅い 発生量：平年並	5 月下旬現在，予察灯（龍ヶ崎市）への誘殺は認めない。水田では例年 6 月下旬頃の発生が多い。
小麦	赤かび病	発生量：やや少	発生の多いほ場では分別収穫し，汚染粒が混入しないようにする。
	黒穂病類	発生量：平年並	
ナシ	輪紋病	発生量：平年並	6 月は主要感染期なので，防除を徹底する。
	アブラムシ類	発生時期：平年並 発生量：平年並	5 月下旬現在，平年並の発生である。発生密度の低いうちに防除を行う。
	ハダニ類	発生量：平年並	5 月下旬現在，発生は認められない。
	ハマキムシ類	発生量：平年並	5 月下旬現在，発生は認められない。
ブドウ	灰色かび病	発生量：平年並	開花期に降雨が続くと発生しやすいので注意する。
	べと病	発生量：平年並	降雨が続くと発生しやすいので注意する。
	晩腐病	発生量：平年並	降雨が続くと発生しやすいので注意する。 昨年多発生した圃場では，防除を徹底する。
カキ	炭そ病	発生量：平年並	5 月下旬現在，発生は認められない。昨年発生した圃場では，降雨により枝の病斑から胞子が飛散するので，防除を徹底する。
	落葉病類	発生量：平年並	6 月は主要感染期なので，防除を徹底する。
	カキクダアザミウマ	発生量： 平年並～やや多い	5 月下旬現在，わずかに発生を認めた。新葉が巻き込む被害が認められた圃場では，直ちに防除を行う。
夏ネギ	さび病	発生量：平年並	5 月下旬現在，平年並の発生である。曇雨天が続くと発生が助長されるので，初期防除を徹底する。
	黒斑病	発生量：平年並	5 月下旬現在，平年並の発生である。高温多雨の場合には発生が助長されるので，初期防除を徹底する。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
スイカ (トンネル)	炭そ病	発生量：平年並	5月下旬現在，平年並の発生である。降雨が多いと発生が助長されるので，今後の気象に注意する。
促成・半促成 ピーマン	アザミウマ類	発生量： やや多い～多い	5月下旬現在，促成栽培で平年より多く，半促成栽培で平年並の発生である。
促成 キュウリ	褐斑病	発生量：多い	5月下旬現在，平年より多い発生である。罹病部は，次作への伝染源となるため，栽培終了時に作物残さのハウス外への持出しを徹底する。
抑制 トマト	ミカンキイロ アザミウマ	-	T S W V (トマト黄化えそウイルス) を媒介するため，育苗期の防除を徹底する。

・病害虫ミニ情報

農薬使用基準の一部改正省令の施行について

～農薬の総使用回数は「有効成分」で規制されます～

今般，農薬使用基準の一部改正省令が平成 17 年 6 月 21 日から施行され，農薬使用者は，農薬に含まれる有効成分の種類ごとの総使用回数を超えて使用してはならないこととなります。

そこで，注意すべき点について説明します。

栽培期間中の使用予定農薬を種子消毒，育苗段階も含めてすべて書き出し，整理する。

使用予定農薬の有効成分と剤（製品）の総使用回数を記入し，同じ有効成分の薬剤がないかチェックする。

農薬の使用予定回数がこれらの総使用回数を超えていないか，またどの程度余裕があるかチェックする。

農薬の使用記録（作物，対象病害虫，濃度，時期，ほ場など）は必ずつけるようにし，使用にあたっては必ず使用記録と農薬ラベルの確認を行う。

なお，平成 17 年 6 月 21 日から，指定種苗の販売には表示が必要となります。

上記改正省令の施行にともない，購入種苗を生産に用いる場合，種苗に使用した農薬使用履歴を生産者等に確実に伝達する仕組みが必要となったため，種苗法に基づく種苗の表示が変わり，食用作物等の販売される種苗には，使用した農薬の有効成分名と使用回数を表示することが義務づけられます。

指定種苗：食用作物等は全て対象

ナシを加害するハダニ類卵の薬剤感受性と防除について

ハダニ類は、薬剤抵抗性が発達しやすい代表的な害虫です。そこで、薬剤の効果を確認するため、ナシのハダニ類について、2種類の殺卵剤に対する感受性検定を行いました。その結果と防除対策の注意点についてお知らせします。

【検定方法】

平成15年及び16年の9月に、県内のナシ園からハダニ雌成虫を採集し、ポット栽培したツルなしインゲン葉に産卵させた後、この卵を検定に供試しました。ハダニが産卵したインゲン葉を、所定濃度に希釈した供試薬剤に10秒間浸漬し、処理7日後に孵化幼虫数を調査して補正殺卵率（供試したハダニの水処理区での死卵率を勘案して薬剤による殺卵率を導き出したもの）を求めました。

【供試薬剤】

バロックフロアブル（2,000倍希釈）
 マイトクリーン（2,000倍希釈）

【結果】

バロックフロアブルは、カンザワハダニ及びミカンハダニの卵に対する補正殺卵率が84～100%とおおむね高かったものの、ナミハダニの卵に対する補正殺卵率は10%前後と低い傾向でした（表1）。

マイトクリーンは、ナミハダニ及びカンザワハダニの卵に対する補正殺卵率が100%であり、高い殺卵効果が認められました（表1）。

バロックフロアブルは、平成9年に行った検定では、調査した全地点で補正殺卵率が100%であり、ナミハダニ及びカンザワハダニの卵に対して高い殺卵効果が認められました。しかし、今回の検定結果から、ナシ園やハダニの種類によっては、薬剤に対する感受性が低下している可能性がありますと考えられました。

表1 各種薬剤処理7日後のハダニ類の補正殺卵率（%）¹⁾

処理区	ハダニの種類		ナミハダニ			ミカンハダニ	カンザワハダニ		
	採集地	筑西市	八郷町	美野里町	常陸太田市 A	八千代町	常陸太田市 B	常陸太田市 C	土浦市
	調査年	H15	H15	H15	H16	H15	H15	H16	H16
バロックフロアブル		3	7	14	10	100	84	100	99
マイトクリーン		-	-	-	100	-	-	100	100

1) 補正殺卵率(%) = {(水処理区孵化率 - 処理区孵化率) / 水処理区孵化率} × 100

【防除対策の注意点】

ハダニ類は、高温乾燥の条件で発生が助長されるため、梅雨明けから急激に増加します。多発生すると防除が難しくなるので発生に注意し、発生初期に防除を徹底して下さい。

ナシには、ナミハダニ、カンザワハダニ、ミカンハダニなどが発生します。薬剤によっては、特定の種類のハダニに対して殺虫効果がないものがあります。防除を行う際には、そのナシ園で発生しているハダニの種類に合わせて殺虫効果のある薬剤を選ぶことが必要です。

薬剤感受性の低下を避けるため、同一薬剤の使用は年1回として下さい。ただし、ある薬剤に対する感受性が低下したハダニは、同系統の別の薬剤に対しても同様に感受性が低下することがあります。サンマイル水和剤、ダニトロンフロアブル、マイトクリーン及びピラニカ水和剤は、同系統の薬剤ですので、これらはいずれかを年1回の使用として下さい。

農薬登録速報（４月）の概要

平成１７年４月期間中（４／１～４／３０）に新規・変更登録のあった農薬は、以下のとおりです。なお、農薬の使用にあたっては、必ずラベル等を確認してください。

殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤

新規＞ Ｄｒ.オリゼダントツ箱粒剤，ネビジン顆粒水和剤，バイオセーフ，パワーリードスピノ箱粒剤，パワーリード箱粒剤，ビルダースタークル箱粒剤，ベニカ水溶剤，ベニカ粒剤，ポトピカ水和剤，兼商ステンレス

変更＞ ＤＣ油剤，Ｄ－Ｄ９２，オルトラン水和剤，カダン殺虫肥料，コロマイト乳剤，ジメトエート乳剤，ジメトエート粒剤，ショットガン，ゾーバー，ダコニール１０００，ダコニールエース，ダントツ水溶剤，チルト乳剤２５，テロン９２，トラサイドＡ乳剤，バシタック水和剤７５，プレオフロアブル，ペイオフＭＥ液剤

失効農薬

ＴＣＬバイケーン，アグロスアグロスリン乳剤，アグロスアディオオン水和剤，アグロスガゼットプリンズ粒剤，アグロスグランドボーイＷＤＧ，アグロスクレマート乳剤，アグロスゲッター水和剤，アグロスコラトップリンバー粒剤，アグロスサイアノックス水和剤，アグロススポルタックスターナＳＥ，アグロススミセブンＰ液剤，アグロススミチオン水和剤４０，アグロススミチオン粉剤２ＤＬ，アグロススミチオン粉剤３ＤＬ，アグロススミバッサ乳剤７５，アグロススミバッサ粉剤２０ＤＬ，アグロススミバッサ粉剤５０ＤＬ，アグロスダイポール水和剤，アグロスタフラー乳剤８０，アグロスノンマイト水和剤，アグロスパーマチオン水和剤，アグロスハクサップ水和剤，アグロスパダンリンバー粒剤，アグロスバッサ粉剤３０ＤＬ，アグロスプリンスリンバー箱粒剤，アグロスベジホン乳剤，アグロスマラソン乳剤，アグロスマラソン粉剤３，アグロスラブサイドスミチオン粉剤ＤＬ，アグロスリンバー水和剤，アグロスリンバー粒剤，アグロスロディー水和剤，アグロスロミカ粒剤，アベンティスオリブライトスタークル１キロ粒剤，ガゼットプリンズ粒剤，カヤベスト粉剤１０，カルホスナック粉剤１０ＤＬ，キタバッサ粉剤３２ＤＬ，キング輸入硫酸ニコチン４０，クミアイクサホープ粒剤，クミアイザーク粒剤２５，クミアイスミバッサＭＣ，クミアイランガードトレボン粉剤ＤＬ，クミアイレルダントレボン粉剤ＤＬ，サンケイスミバッサＭＣ，サンケイラブサイド水和剤，サンケイレルダントレボン粉剤ＤＬ，シオノギ・アリエッティ水和剤，シオノギ・シクロサルU粒剤２，シオノギ・スピノエース顆粒水和剤，シンジェンタ・ユニハーブフロアブル，スタム乳剤３５，ダイシストン・バイジット粒剤３，ダイセステンレス，チバガイギー・ホクト粒剤，チバガイギー・ユニハーブフロアブル，デュボンハイバーＫＤ，デュボンベンレートＴコート，デュボンベンレートＴ水和剤２０，デュボンベンレート水和剤，トモノＺボルドー粉剤ＤＬ，トモノスコア水和剤１０，トモノダイアジノン水和剤３４，トモノトレボン粉剤ＤＬ，トモノプランダム乳剤２５，トモノロディー乳剤，バッサバリダシン粉剤ＤＬ，パプナック粉剤３５ＤＬ，ビームトレスターナ粉剤５ＤＬ，マスターズ，マブリックナック水和剤，ヤシマオフトレボン粉剤ＤＬ，ヤシマオフトレボン粉剤ＤＬ，ヤシマフジワンＡＶ，ユカワイド粒剤，ラブサイドカルホス粉剤ＤＬ，ランガードマクバール粉剤ＤＬ，科研ポリメットＰ水和剤，三共スカウト乳剤，三光バイケーン，大内ポリメットＰ水和剤，日産ガゼットプリンズ粒剤，日産ゲザバックス乳剤２５，日産ユカワイド粒剤，日産レルダントレボン粉剤ＤＬ，日曹スピノエース顆粒水和剤，日農シクロサルU粒剤２，日農プリンズ粒剤，明治ねらいうち

農薬の登録失効は、同一成分の農薬においても販売メーカー毎になりますので、ご注意願います。

病害虫防除所ホームページで図，写真をご覧ください。
ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/ibaraki/>

水稻

いもち病

主な発生地域：県北地域，県南地域の筑波山周辺，鹿行地域の谷津田など。

発生条件：いもち病の発生には気象が大きく影響する。発生しやすい条件は，気温 14～30（特に 20～25）で，弱い雨や露などが続いてイネの葉が長時間ぬれるような場合である。一般的に 6 月の高温多湿，7～8 月の低温多雨は発生を助長する。例年，6 月下旬から発生する。

防除のポイント：

葉いもち；発生を認めてから 1 週間以内に乳剤や粉剤等を散布する。常発地や，動噴等の使用が難しい場合には，粒剤を初発前に散布しておく。

穂いもち；葉いもちが多発して上位葉に病斑が伸展している場合には，穂ばらみ末期と穂揃期の 2 回散布を行う。葉いもちの発生が少なく，上位葉への進展がない場合には，穂揃期に 1 回防除すれば十分である。出穂期に降雨が続く場合は，いもち病の感染に好適なため，葉いもちの多少に関わらず必ず防除する。粒剤の場合は，出穂の 1 週間前までには施用する。

写真 1 葉の病徴

図 1 いもち病の発生活長と防除適期

イネクロカメムシ

主な発生地域：中山間地域，谷津田，山林に隣接した水田

発生活態：体長 8～10mm で，体色は全体的に黒い。成虫が山林の落葉の下等で越冬する。水田の周縁部，特に山林等に近い場所で発生が多い。主にイネの株元に生息し，葉鞘から吸汁，加害する。生育初～中期に加害されると葉先がよじれ，草丈が低く，分けつが少なくなり，減収する。激しい加害を受けると穂の出すくみや白穂も発生する。

防除のポイント：6 月下旬から 7 月上旬に葉に写真 3 のような症状がみられる場合は，イネクロカメムシによる加害が考えられる。防除は越冬成虫の発生ピークで産卵開始前の 6 月末～7 月初めに実施する。薬剤は虫によくかかるように散布する。

写真 2 成虫

写真 3 葉に現れた被害

図 2 イネクロカメムシの発生活長と防除適期

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 5月28日から6月27日)

気象庁 (5月27日 発表)

< 向こう1か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は，平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温，降水量，日照時間ともに平年並でしょう。

< 1週目の予報 > 5月28日(土曜日)から6月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

< 2週目の予報 > 6月4日(土曜日)から6月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

< 3週目から4週目の予報 > 6月11日(土曜日)から6月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

・ テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために，病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

普通作物 029 (226) 5321

6月上旬 水稲の病害虫対策について

中旬 農薬の有効成分による総使用回数の規制について

下旬 水稲のいもち病と斑点米カメムシ類の対策について

7月上旬 水稲病害虫の発生現況と防除対策について

園芸作物 029 (226) 6131

6月上旬 ナシ病害虫の発生現況と防除対策について

中旬 農薬の有効成分による総使用回数の規制，並びにナシ黒星病について

下旬 施設野菜病害虫の発生現況と防除対策について

7月上旬 露地野菜病害虫の発生現況と防除対策について